

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年2月2日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4691400099
法人名	RH輝北プレスウッド株式会社
事業所名	グループホーム ゆうきのなぎさ
所在地	鹿児島県垂水市二川945番1号 (電話) 0994-36-2100
自己評価作成日	平成26年1月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成26年1月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

垂水市の牛根地区にホームはある。近隣は高齢者が多いため、地域に根差し、地域の助けになれるように運営を行っている。

そのため、夏祭り・敬老会などは、地域の人々が参加出来るように行事を行っている。特に夏祭りは、振興会長・青年団・消防団など様々な助けを借りながら行っている。また小学校からは机・椅子を借り、舞台・電飾などは町内会から借りて開催している。当日は多くの参加者がいるが、御子様連れも多いため、御子様に向けてホームで用意したプレゼントを渡して、喜ばれる場面が多く見られる。

敬老会では御家族・近隣の方々を招待し、催し物の後は食事会を行っている。入居者様の半分は牛根地区から来られており、昔馴染みの方々の参加もある。

運営推進会議では、地域の方々を招き、情報提供を行っている。ケアの方針などが適正か判断を聞く場面もあり、ホームの運営に役立っている。また防災体制・ホームの運営体制の報告を行い、様々な助言を頂いて運営に反映させている。特に防災について助言を多く頂いている。ホームではAEDを設置しているため、スタッフ全員が普通救命講習を行い資格を保持している。

ケアとして、それぞれの認知症状を理解して、本人様の主体性を引き出せるケアを実践している。家庭的な雰囲気与生活を送れるようにし、落ち着いた生活が送れるように支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当ホームは地域との協力関係を築きながら施設運営に取り組み、地域の人達からも頼りにされている。ホームの夏祭りや敬老会などの行事に地域住民と行事を行っている。
- ・ホームは災害時の指定避難場所になっている。イルミネーションを着けたことで周辺が明るくなり地域から喜ばれている。
- ・理念は地域密着を含む①暖かく②明るく③笑っての3つを掲げ、日々のケアに努めている。
- ・災害対策については、桜島が近いので行政の方で避難マップや災害に関する会議が行なわれ毎回参加して緊急時に備えている。緊急通報システム・スプリンクラーの設置や近隣職員の体制も整えている。
- ・身体拘束廃止委員会があり、研修や勉強会で意識を高め、特に精神的な拘束につながる言葉や玄間を解放して、拘束をしない支援をしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を3つ上げている。ケア会議・申し送りで確認を行うこともある。地域密着型サービスから離れない理念作りを行っている。	理念に地域密着型を含む①暖かく②明るく③笑っての3つを掲げ、毎月の職員会議やケア会議、委員会活動（虐待・感染・身体拘束）、朝の申し送り等で理念の目指すものを確認しながらケアに当たっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者が地域と継続して繋がりが持てるように支援している。例えば、夏祭り・敬老会等は、地域と協同して行えるようにしている。地域の小学校の運動会に見学参加を行っている。	自治会に加入し、ホームが中心になり地域行事等が進められ、地域の清掃活動等を協同して実施している。災害などの非難場所としての指定も受けている。地域の幼稚園や小学校との交流も行なわれ、近所の人達が野菜や果物を持ってきたり、ホームでできた野菜を差し上げたり、日常的に地域と交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	夏祭り・敬老会等を地域に開放して行っている。夏祭りでは、子供連れも多く参加され、地域の高齢者、時には通りすがりの方も参加されることがある。また小学校・町内会からの協力を得ながら運営されている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、入居者様の状態・サービスの内容について報告を行っている。地域の青年団・振興会長等を毎回招き、意見を取り入れており、特に行事・防災では、様々な意見を頂き生かしている。	会議は定期的開催し、ホームの現状報告や外部評価の結果報告を行い、ホームの行事への要望や避難訓練・防災についての助言等を得て、意見交換などで運営に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議では、ケア内容・運営について報告をしている。ホームの運営について毎回意見を聞く場面を設けている。行事等のスタッフ配置に意見を頂いたことがある。	市の担当者には、運営推進会議や市主催の会議出席時に意見交換や相談を行って協力関係を築くようにしている。書類申請などでは直接出向き状況報告をしている。災害対策のマップ作りや災害に関する会議への参加をして、管理者会議や地域ケア会議などでも相談して、アドバイスを得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の勉強会等を開催している。道具を使った拘束他、言葉の拘束、薬の拘束などを取りあげ学べるようにしている。ホームでは身体拘束を行った実績はない。認知症状が重度化傾向にある入居者様もおり、今後に向けて、より本人様に適したサービス内容が必要と思われる。	身体拘束廃止委員会があり、勉強会を通じ、特に精神的拘束の言葉については十分な話し合いを設け、認識を深めている。鍵等で利用者の行動を制限せず、見守りを強化し、外出希望者には付き添いながらケアをしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>ホーム開設当初から入所されている方もおり、スタッフが雑な話し方をする場面が見られることがある。言葉の虐待に繋がる恐れもあり、慎むように指導している。虐待の実績はないが、言葉の虐待が見過ごされ易いとスタッフ一同理解し、確認を行っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>権利擁護・成年後見制度の勉強会を過去に行ったことがある。身体拘束防止・虐待防止と合わせて学べるようにしている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時は、ホームの方針、ホームが出来ること・出来ないことを説明している。また重度化と終末期介護は時間をかけ説明を行っている。疑問点はできるだけ解消できるよう説明し納得が得られてから契約の締結を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時には、入居者様の生活面・心身面を的確に報告している。御家族様とホームと互いに意見が出し合える関係作りを理想としている。御家族との信頼関係がホームの運営には欠かせないことを、スタッフに指導することもある。	利用者ごとに職員が担当を決めて思いを聞いている。家族の面会時にホームの現状報告や意見交換を行い、家族等の要望等を聞くようにしている。家族会は敬老会の前に開催し、希望や要望等を聞き、必要事項等を申し送りノートに記録して、職員全員が把握し、運営に活かしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ケア会議等で、スタッフと一緒にケアの方針等を立てている。毎日の申し送り・業務内でも、ケア・運営に関しての意見があれば検討し反映できるようにしている。	毎月のケア会議や職員会議で意見を聞く機会があり、物品購入の要望やケアの手技についての提案等が出されている。個別の相談は、毎日夜勤者に管理者が電話する際や食事会等でも聞いている。意見の反映は、随時取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	処遇改善加算により、夏・冬に一時金を支給している。処遇改善加算について、スタッフに説明を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修会には必ずスタッフが参加できるように、勤務の調整を行っている。介護の基礎的な研修があれば、若いスタッフが参加出来るようにしている。中堅のスタッフには責任のある担当に配置している。防火管理者の資格を持たせ、ホームの防火管理者に任命している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市内の包括ケアの研修会に、必ずスタッフは参加している。継続した研修であり、市内の病院含め、調剤薬局からも参加がある。ホームのケアスタッフ同士で交流が生まれている様子である。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所前の相談から、入所後と御家族と話し合い行っている。本人様の過去生・生活面・心身面・家族の希望など。家族・介護・医療からの継看連絡はスタッフ間で漏れなく共有できるようにしている。入所してスタッフは会話・傾聴をし信頼が得られるように関係作りを行っている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>相談・入所の申し込み・入所に至る過程で、御家族より不安・要望・ケアの方針等の聞き取りを行い、説明を行っている。入所後は心身面・生活面等の説明を行っている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談される内容により、必要なサービスの検討を行い、御家族がどのサービス利用が適切か判断できるように説明を行っている。相談によっては、外部のサービスについて説明を行うことがある。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>理念にスタッフと入居者様が一体になり暮らしていく項目を設けている。入居者様が出来ることは出来るように、スタッフと共に協力出来る関係作りを行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>御家族の御協力が得られる方には、精神的な支援・援助を依頼することがある。御家族との関係性をより構築し、入所から現在の状態を共に理解しあえている関係作りが行われている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>昔馴染みの方等の面会は制限していない。地域と一緒に、行事を行うことで、近所に親近感が生まれ、定期的に面会される方もおられる。関係が続けられるように支援を行っている。</p>	<p>入居者の友人・知人が野菜や果物を持って訪れたり、面会時には、いつでも自由に来て欲しいことを話し、関係が途切れないように努めている。家族の協力もあり墓参りや馴染みの場所に行ける機会を設けている。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>関係作りが強化されるレク活動等を導入している。昔話で会話が盛りあがることもある。入居者様同士の認知症状・相性を見極め座席の位置等を調整することがある。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退所時に継看連絡を提供し、次施設・病院で生活が混乱する事のないように支援を行っている。また御家族とも連携を図っている。退去後の面会・御家族へ状態を伺うこともある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人様のニーズを捉え、的確なサービス提供が行えるように支援している。御家族へ過去の生活など聞き取りを行い、していた生活が送れるように支援しています。	本人の思いや意向を大切にして、日常生活の中で聞いたり見たりしたことを申し送りノートに記録し、職員の共有化を図っている。自ら訴えられない利用者は家族や馴染みの人達から情報収集して、得られた生活歴等の情報は、個別ノートを作成し把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、御家族・本人様より、過去生・生活状況等の聞き取りを行っている。昔馴染みの暮らし方が継続できるようにしている。在宅時の生活家具や写真等を持ち込んで頂けるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ること・出来ない事を見極め、残存能力が維持できるように支援を行っています。出来ないことが出来るようになるように、行動に集中できるケア・声かけを行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>担当者会議、ケア会議をもとにして、現状に即したニーズに合わせてケアプランを立案している。ケアプランはスタッフ全員で確認を行っている。モニタリングをスタッフと行うこともあり、次回のケアプラン作成に生かしている。</p>	<p>本人や家族の思いを基に職員でケア会議を開き介護計画を作成している。日常の中で気づいた事を記録し、アセスメントにおけるプランを作成している。毎月モニタリングを行ない、見直しを6ヶ月ごとに行っている。利用者の変化に応じて、現状に即した計画となるようにしている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>経過記録は、入居者様の健康状態・皮膚状態・不穏状態・発言内容等、客観的に書けるように指導している。食事・水分摂取・血圧等の記録を常に行っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>夏祭り・敬老会など、地域の中で活動できるように取り組んでいる。御家族・昔馴染みの方も一緒に参加され交流が生まれるように支援しています。また地域内での交流も生まれており、去年は小学校校長・教頭、消防団様、駐在所警官も参加されている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>運営推進会議から地域の意見をくみ上げ、その意見を行事等に反映している。地域の運動会や保育園・小学校の訪問・慰問を受け入れている。毎年継続して行われており、地域との繋がりを大事にしたい。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>地元のかかりつけ医から2週間に1度の往診を受けている。常に情報連携を行っており、変化があれば状態を報告し、特変時にはすぐに協力が得られる体制作りを行っている。御家族・本人様の意向によっては、希望する病院の通院を行っています。</p>	<p>入居時に、本人及び家族の希望を聞きかかりつけ医の受診を支援している。協力医療機関からの往診と24時間の医療連携体制があり、適切な医療が受けられるようになっている。。受診の際は家族の協力があり、家族が行けないときはホームで支援している。</p>	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医のNsと入居者様の心身面・生活面の情報提供し、共有ができるようにしている。特変時のDr.との連携をNsに依頼することもあり、報告・連絡・相談は常に行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は、情報提供を的確に速やかに行い、医療機関での生活が乱れないように支援を行っている。病院Dr.からの病状説明には、管理者・ケアマネが付き添い、情報が得られる協力作りを行っている。退院時期について、病院ケアマネと調整を行ったことがある。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>御家族・本人様の希望により終末期介護を受入れたが、直前に病院で死去した事例が過去に1度ある。入居時等の説明・契約時に重度化と終末期介護についての説明を行い、併せてホームが出来ること出来ないことの説明を誤解がないよう行っている。了解を得てから契約を行っている。現在、ホームは終末期介護を行える環境にたく体制加算を申請していない。</p>	<p>契約時にホームの方針を説明し、本人や家族の希望を最初で聞いて、重度化等の場合には再度説明を行い、家族等の意向に沿って、ホームでできる最大限の支援に取り組んでいる。最終的に医療機関で終末期を迎えてもらうことを段階的に説明している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>ホームでAEDを設置しており、消防の指導のもとAED訓練を行っている。スタッフ全員、普通救命講習の講習・実地を行い、免許を所持している。過去に1度AEDを使用した事がある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	過去に2度、市内へ避難した事があり、防災への意識はスタッフ全員高い。梅雨時・台風時には、スタッフに2,3日分の着替えを持参するように伝えることもある。定期的にホームの備品チェックを行っている。長雨時は市・消防との連携を細かく図っている。	消防署の協力で避難訓練を年2回昼夜間想定で実施し、住民の参加も得ている。スプリンクラーと自動通報システムを設置している。災害用の食品等の備蓄や非常用持ち出し袋の準備等、災害対策に取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ一人一人が権利擁護を理解できるように指導している。権利擁護の取り組みを常に確認とれるように貼りだしている。本人様を尊重したコミュニケーションをとれるように実践している。	権利擁護について、研修を通じ、職員全員で共有し資質向上に取り組んでいる。言葉かけについて重点的に取り組み、日々のケアの中で、人格を尊重してプライバシーの保護に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人らしさ、その人のペースを大事にしている。入居者様の認知状態は様々であり、一人一人に合わせた対応を行っています。納得して行動を起こせるように支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・食事・入浴・就寝など、本人様の意向を尊重して誘導を行っている。訴えた事は尊重し受け取るが、その都度本人様に必要な事を吟味検討している。必要な支援をする場面もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	洗顔・入浴・更衣など、本人様に満足感が得られるように支援している。衣服などは、昔から馴染みのあるもの、愛着がある道具など持ち込んで頂けるようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑に季節の野菜を植えている。収穫、下ごしらえには入居者様の手を借り、調理し食卓まで乗せている。食事に関心が持てるように支援している。腎食の方もおられスタッフ一人一人が腎食についての的確な調理を行っています。	職員と一緒に、力量に応じて下ごしらえや準備等を行い、同じテーブルで食べる等、家庭的な雰囲気を楽しんでいる。収穫した新鮮な野菜や近所の人からもらった野菜などを味わって楽しんでいる。季節の保存食作りも職員と一緒にしている。ホームの行事で弁当持参の花見等や外食等も実施している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分摂取量は日々確認し記録に残している。水分が苦手な方が多いが、時間・温度・形態・種類を変えて1日1500ml摂取できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。入居者様の状態に合わせてケアをしている。夕食後は薬剤に浸けて洗浄している。自歯の方もおり、仕上げ磨きを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日中夜間と排泄を確認し記録に残している。尿意を感じずらい方には、水分摂取量から排尿間隔を捉え誘導を行っている。失禁を減らし快適に過ごせるように支援している。	排泄チェック表から排泄パターンを把握して、声かけ誘導をしている。尿取りパッドの厚さを薄い物へ変えて尿意感覚を取りもどしたり、尿意のない利用者には、排泄（尿）の間隔を把握しトイレ誘導の工夫をして失禁の減少やリハビリパンツから布パンツへの変更等、利用者が快適に過ごせるように支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中夜間と排便を確認し記録に残しています。便秘傾向の方はいますが、適切な時間に誘導を行い排便を促しています。水分・食事・運動を適切に保てるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している</p>	<p>声かけするタイミングを図り、本人様の入浴したいと思えるように支援をしている。入浴に対して苦手意識を持つ方もいるが、週に3度程は行っている。</p>	<p>入浴は週3回が基本であるが、生活習慣やその日の健康状態、希望を聞いて本人の入浴の意思を確認して支援している。職員とゆっくり会話しながら楽しんでいる。入浴を拒む利用者には、個浴や声かけの工夫をしている。近くの足湯を利用することもある。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>日中は、夜間睡眠に影響が及ばない程度の午睡を行えるようにしている。日中の活動性を高め、夜間帯に良眠できるように支援している。また室温・寝具・衣服の調整を行い、快適に休めるようにしている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬剤情報はかかりつけ医より提供されている。スタッフがいつでも確認が取れるようにしている。往診時での服薬の変更は付き添ったスタッフが確認し記録に残している。また処方方法・注意点を聞き取り、正しく使用できるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>女性の方には家事活動の手伝いを依頼し役割を得られるようにしている。洗濯たみは、自然に人が集まり雑談が始まる場になっている。また野菜の下ごしらえなども同様の場である。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>園芸活動・野菜の収穫・ウッドデッキでの活動・花見・ドライブ・外食などの活動を行っている。墓参りなどを御家族に依頼することがある。お盆・正月には御家族へ帰省できなにか相談することもある。</p>	<p>散歩は、広い敷地内で毎日実施している。家族の協力をもらって墓参り・正月・お盆の帰省ができたり、職員と一緒にドライブや外食・神社参り・バラ園・弁当を作り花見など、楽しめる時間を作っている。「ホームに閉じこもらないように」をモットーにできるだけ外出支援をしている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>認知症状がある為、障害もあるが、御家族の希望、本人様の希望が一致する方には、管理を任せている。所持されていない方は買い物時等、スタッフと行っています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>御家族からの電話は確認して、本人様に御繋ぎしている。遠方からの御家族へは、スタッフから生活面・心身面の状態の報告を行い繋いでいます。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホール・各部屋に温度計を設置し、確認を行いながら室温調整を行っています。加湿器を用意し、加湿器調整を24時間行っています。毎月、カレンダーを手作りし季節感を感じられるようにしている。</p>	<p>台所や食堂・リビングが一体となったホールは広くゆっくりくつろげる空間になっている。ウッドデッキに出るガラス戸を通して室内は明るく、温度計や加湿器などで室温調整が行なわれ快適な環境になっている。利用者と一緒に作った手作りカレンダーや作品・季節を感じる飾り付けがある。畳のスペースや窓際のソファで利用者は好きな場所でくつろげるように工夫がされている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホールにソファ・畳部屋を用意し、入居者様が思い思いの場所で過ごせるようにしている。現在テーブルは囲んで設置しているが、入居者様の関係性を考慮して配置している。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない